24 イギリス市民革命

テューダー朝　　〔議会〕

1603 王権と議会の対立

ステュアート朝始まる 1603

ジェームズ1世 1603～25
- ＿＿＿＿＿説を唱え議会軽視
- ＿＿＿＿と結びピューリタン弾圧
- 大商人への特権付与

（カルヴァン派）
1620　メイフラワー号によるピューリタンの北米移民
1621　下院は大抗議

チャールズ1世 1625～49
1629～40　無議会時代の専制政治

1628 ＿＿＿＿＿＿
- 課税は議会の承認を必要
- 法によらない逮捕等の禁止

1639 ＿＿＿＿＿＿＿の反乱 ⇨ 1640　短期議会　反乱鎮圧の戦費調達のため
国教会強制に対しプレスビテリアン反発
1640～53 ＿＿＿＿＿
1641　大諫奏を決議（国王非難）

1642 ピューリタン革命

【王党派】
- 特権大商人，保守的ジェントリ
- 貴族，国教徒　イングランド北・西部

1642　内乱勃発　始めは王党派が優勢

【議会派】
- 中小商工業者，進歩的ジェントリ，独立自営農民
- ピューリタンが中心　イングランド南・東部

＿＿＿＿＿＿の鉄騎隊の活躍で議会側が優勢に
1645　＿＿＿＿＿の戦い　議会派の軍事的勝利確立
国王チャールズ1世を捕える
議会派対立
- ＿＿＿派　立憲王政を主張
- ＿＿＿派　制限王政　⇨　共和政
- ＿＿＿派　共和政

1649 ピューリタン革命
1648　長老派を追放し，＿＿＿派が権力を掌握
1649　国王＿＿＿＿＿＿を処刑　＿＿＿＿＿を宣言

1649 共和政

クロムウェル 1649～58　軍事独裁
- 1649　水平派の反乱を鎮圧
- 1649　＿＿＿＿＿＿の征服　1650　スコットランド征服
- 1651　＿＿＿＿＿制定　重商主義政策の確立★内容・意義
- 1652～74　＿＿＿戦争　オランダの世界商業覇権を打ち破る
- 1653　＿＿＿＿＿となる

死後，長老派が王党派とくんで王政復古

1660 王政復古

チャールズ2世 1660～85
- 反動政治　親仏政策
- ＿＿＿＿＿＿教徒を擁護・連携 ⇨ 1673　＿＿＿を議会可決　公職（議員・官吏）は国教徒に限る
- 1679　＿＿＿＿＿可決

議会内に政党の成立
- ＿＿＿＿党（地主）　国王より
- ＿＿＿＿党　商工業者　議会主権

ジェームズ2世 1685～88　反動政治

1688

1688 名誉革命
- 議会は，長女メアリと夫のオレンジ総督ウィリアムを招く
- ジェームズ2世はフランスに亡命

議会政治の確立

ウィリアム3世，メアリ2世 1689～1702
1689　＿＿＿＿＿を発布 ⇦ 1689　＿＿＿＿＿を決議
- 立法・課税・軍事等で議会が優位
- 立憲君主政の成立

アン女王 1702～14
1707　＿＿＿＿＿＿王国成立

政党政治の始まり
議会の多数党が組閣して政権交代

ジョージ1世 1714～27　ハノーヴァー朝始まる
ドイツ貴族が即位　（現＿＿＿＿＿朝）

1721～42　＿＿＿＿＿＿（ウィッグ党）内閣を率いて最初の首相に　責任内閣制の成立
『王は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿』